

2013 年 秋季大会 領域 9 インフォーマルミーティング議題 議事録

開催日時 2013年9月26日 17時15分～18時15分

於 徳島大学常三島キャンパス (JA会場)

領域代表 長谷川修司(2013.4-2014.3)

領域副代表 須藤彰三(2013.4-2014.3) 領域代表(2014.4-2015.3)

領域運営委員 武田さくら、勝野弘康、石井宏幸(2013.4-2014.3)

柚原淳司、岡田有史、山田豊和(2012.10-2013.9)

議題

1. 報告

- (1) 今大会のプログラム編成
- (2) 第 69 回年次大会(2014 年 3 月 27 日～30 日)までのスケジュール
- (3) 領域9のキーワード追加について

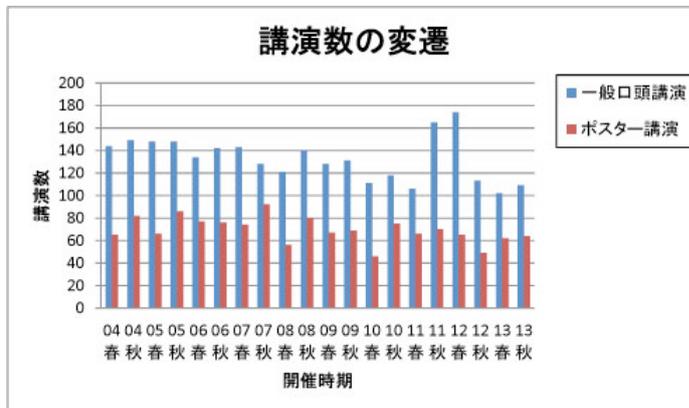
2. 協議事項

- (1) 次期領域副代表・次々期領域代表の推薦・承認について
- (2) 次々期領域運営委員の推薦・承認
- (3) 若手奨励賞 領域9授賞規定および細則の改訂について
- (4) 領域活性化予算について
- (5) 領域9(表面・界面、結晶成長)の略称名について
- (6) 次大会(2014年 年次大会)におけるシンポジウム・招待講演
- (7) キーワード・合同セッションについて

【報告】

(1) 今大会のプログラム編成

	発表件数	前回学会との比較 (2013 春(広島) / 2012 秋(横国))
一般総数 :	173 件	(+9/+11)
一般口頭発表 :	109 件	(+7/-4)
ポスター発表 :	64 件	(+2/+15)



合同セッション (1 件)

領域 3(表面磁性) 発表件数 13 件(うち領域 9 が 2 件)

シンポジウム・合同シンポジウム(2+0 件)

「二次元物質の成長過程」(領域 9, 25pJA)

「単一原子・単一分子・ナノ粒子での量子物性の新展開」(領域 9, 26aJA)

招待講演・合同招待講演(1+0 件)

田中啓文 (阪大理) (領域 9, 27aJA-6)

「少数分子/ナノカーボン複合体の電気特性と新機能発現」

英語セッション希望申し込み 4 件(うちポスター講演 2 件)

	2013/9/25 (水)		2013/9/26 (木)		2013/9/27 (金)			2013/9/28 (土)	
	会場1(JA)	会場2(JB)	会場1(JA)	会場2(JB)	会場1(JA)	会場2(JB)	会場3(PSA)	会場1(JA)	会場2(JB)
午前	トポロジカル表面 9:30-12:30	結晶成長 9:30-12:00	シンポジウム 「単一原子・単一分子・ナノ粒子での量子物性の新展開」 9:30-12:15		表面界面電子物性+招待講演 9:15-12:30	表面界面構造 9:00-12:15		ナノチューブ・ナノワイヤ 9:00-12:15	表面界面ダイナミクス 9:15-12:15
午後	シンポジウム「二次元物質の成長過程」 13:30-17:00		表面界面電子物性 13:45-17:00	表面界面構造 13:30-17:00			ポスター 13:30-15:30	表面界面構造 13:30-16:15	表面局所光学現象 13:45-16:15
JA会場 150人収容 JB会場 60人収容			領域9 IF ミーティング						

(2) 次大会 (第 69 回年次大会) までのスケジュール

開催地: 東海大学 湘南キャンパス

開催期間: 2014年3月27日(木)~30日(日)

- 招待講演, 企画講演, シンポジウム企画募集掲載: 会誌 10月号
 - 講演募集要項掲載: 会誌 11月号
 - 招待講演, 企画講演, シンポジウム企画申込期間 (Web): 10月4日(金)~11月12日(火)
(※物性領域公募締切は10月31日)
 - インフォーマルミーティング申込期間 (Web): 10月4日(金)~11月22日(金)
 - 素核宇領域・物性領域プログラム小委員会/ 領域委員会: 11月19日(水)
 - 一般講演 申込期間 郵送: 11月1日(金)~11月15日(金)
Web: 11月1日(金)~11月24日(日)
 - プログラム編集会議: 12月5日(木)
 - プログラム初校校正: 2014年1月上旬
 - プログラム暫定版 Web 公開: 2013年12月下旬
 - 講演概要集原稿締切 (郵送, pdf 同時): 2014年1月17日(金)
 - 座長依頼発送: 2013年12月下旬
- プログラム掲載: 会誌 2014年3月増刊号

(3) 領域9のキーワード追加について

前回のインフォーマルミーティングでの決定を受けて、領域9の第1キーワードに、「グラフェン・シリセン」を追加。

【協議事項】

(1) 次期領域副代表・次々期領域代表の選出・承認 : 賛成多数で可決

2013.4-2014.3 (現行)

領域代表: 長谷川 修司 (東京大学)

領域副代表: 須藤 彰三 (東北大学)

2014.4-2015.3 (次期)

領域代表: 須藤 彰三 (東北大学)

領域副代表: 平山 博之 (東京工業大学)

2015.4-2016.3 (次々期)

領域代表: 平山 博之 (東京工業大学)

領域副代表:

(2) 次々期領域運営委員候補者の推薦・承認 : 賛成多数で可決

表面・界面分科

荒船 竜一 (物質材料研究機構)

南谷 英美 (理化学研究所)

結晶成長分科

本同 宏成 (広島大学)

(3) 若手奨励賞 領域9授賞規定および細則の改訂について : 賛成多数で可決 民法によると満年齢は誕生日前日の終了時に年を一つとると規定されており、4月1日生まれは3月31日の終了時(午後12時)に年をとるため、4月1日生まれの人は翌日の4月2日生まれの人では学年が異なる。この点を考慮し、改訂がなされるとの説明が領域代表の長谷川先生よりあった。

第9回(2015年)の若手奨励賞の公募に向け、規定および細則を以下のように改訂。

(現行) 規定2. 応募資格 「…受賞年度の3月31日現在において37歳以下であること。…」
細則2. 審査について ・上限数(3名)以内の候補者を選定し、…

(改訂後) 規定2. 応募資格 「…受賞年度の4月1日現在において37歳以下であること。…」
細則2. 審査について ・上限数(2名)以内の候補者を選定し、…

(4) 領域活性化予算について 領域代表の長谷川先生から案内があった。

以下、領域委員長からのメール連絡の抜粋

理事会では、領域代表・副代表、運営委員等が集まって領域の活性化のために不可欠な会合を開く場合に、会合出席者の交通費の一部を物理学会の予算でサポートすることとしました。ただし、予算枠が限られているため、領域内の会合はできるだけ大会時やプログラム編集会議のときに行っていただくこととし、それ以外の時期に会合をもつ必要性が高いと認められる場合にのみ使用できるものとします。また、会合にはできるだけ湯島の物理学会の会議室(TV会議も使用可)をお使いください。希望する領域は申請してください。秋季大会時のインフォーマルミーティング等で領域内でご相談ください。 領域委員長 田村裕和

(5) 領域 9 (表面・界面、結晶成長) の略称名について 領域代表の長谷川先生から案内があった。

領域 9 の略称名は、(表面・界面、結晶成長) となっていますが、理事会から更なる簡略化の要請を受けています。この件に関して経緯の説明と議論を行いたいと思います。

(6) 第 69 回(2014 年)年次大会におけるシンポジウム・招待講演(敬称略): 賛成多数で可決。シンポジウムの提案が 3 件となったのが、3 件の提案には優先順位を付ける必要があると考えられるとのこと。優先順位付けは領域正副代表に一任することになった。

(3-1) 招待講演

講演題目: 「対称性に起因したシリコン表面上の特異なラシュバ効果」
坂本一之 (千葉大) (推薦者: 武田さくら)

(3-2) シンポジウム講演

(1) 提案者: 長谷川修司

主題: 「金属吸着半導体界面の物理—この 30 年を振り返り、次の 10 年を展望する—」

説明: ここ 30 年の表面物理を牽引してきた金属吸着半導体表面を総括し、次の 10 年を展望する。

(2) 提案者: 勝野弘康

主題: 「氷の結晶成長—実験とシミュレーションによる最近の進展—」

説明: 近年、氷結晶を対象にした実験、シミュレーションが大きく進んでいる。そこでは結晶成長の基本的な描像に関わる成果も現れている。そこで、本シンポジウムでは、最近の報告も含めたこれまでの氷結晶成長に関する研究を概観し、結晶成長の基本的なメカニズムを考える機会としたい。

(3) 提案者: 石井宏幸

主題: 「表面・界面を舞台とした物理とその応用 ~触媒反応と電子デバイス~ (仮)」

説明: 表面反応や表面界面物性の理解は、学術的に興味深いだけでなく、触媒反応や半導体デバイスの根幹である。最近、新しい計測技術の開発や計算物理学の進歩により、これら表面界面物性の原子・分子レベルからの理解が進んでいる。本シンポジウムでは、触媒反応の舞台である固液界面から π 電子共役系の電子デバイスで重要な金属/半導体、絶縁体/半導体界面まで幅広く取り上げ、その系統的理解を一段進めることを目的とする。

*** 留意事項 ***

1. 提案者の身内の方は講演者に推薦できません。
2. シンポジウム講演で、講演者が極端に一つの所属に偏らないように御注意下さい。
3. 終了後、提案者の方は報告書を書いていただく必要があります。
4. 講演者は連名無しで、単名で御推薦をお願い申し上げます。
5. 招待講演の場合、推薦理由のカテゴリー(推薦に値する成果の形式: (1)研究報告, (2)プロジェクト研究終了, (3)博士論文, (4)論文発表, (5)外国招待研究者 など)と、その内容を簡潔にお知らせください。
6. インフォーマルミーティング当日には、招待講演提案書と招待講演に関する論文リストを合わせて OHP で紹介していただくこととなりますので、後ほどご用意ください。
7. シンポジウムの場合も、主題と内容説明が必要となります。インフォーマルミーティングにおいて議論されていない提案については、領域からの推薦順位等で不利になることがあります。また、代表が提案者に項目 5.と同じ書類等の提出を求めることがあります。
8. いずれの場合も実質的な最終決定は年次大会後のプログラム委員会においてなされます。何らかの不備等がある場合、このとき不採択になる可能性もありますがご了承ください。

最近のシンポジウム、特別講演・招待講演を資料 1,2 に示します。

- (7) キーワード・合同セッションについて **グラフェン・シリセンが追加されたことについて説明があった。**

2014 年春季大会に予定しているキーワード

第一キーワード (研究分野)	第二キーワード (物質等)	第三キーワード (手段等)
(1) 結晶成長 (オーラル 8/ポスター5)	(21) 金属	(31) 走査プローブ顕微鏡法
(2) 表面界面電子物性 (25/20)	(22) 半導体	(32) 電子顕微鏡法
(3) 表面界面構造 (30/16)	(23) 無機化合物	(33) 分光
(4) 表面界面ダイナミクス (14/6)	(24) 有機化合物	(34) 回折
(5) 表面ナノ構造量子物性 (3/2)	(25) 高分子・バイオマテリアル・コロイド	(35) その場観察
(6) 微粒子・クラスタ (0/1)	(26) その他	(36) 技術開発
(71-75) 新トピックス		(37) 理論・シミュレーション
(71) 表面磁性 (2/5)		(38) 結晶評価
(72) 表面局所光学現象 (6/1)		(39) 核生成
(73) ナノチューブ・ナノワイヤ (12/4)		(40) その他
(74) 水素ダイナミクス (1/3)		
(75) トポロジカル表面 (5/0)		
(76) グラフェン・シリセン		

合同セッションについての現状

口頭発表で「表面磁性」をキーワードで選んだ場合は自動的に領域 3 との合同セッションにする。現在のところ、春は領域 3、秋は領域 9 が開催している。領域 10 とは機動的に合同セッションを開催する。講演募集要項での記述は以下のとおり。

- ・領域 3 (磁性、磁気共鳴分野) と領域 9 (表面・界面分野) は表面磁性に関連する合同セッションを設ける。合同セッションの講演希望者は、領域 3 においてはキーワード「表面・界面磁性」を選択し、要旨欄に「領域 3 & 9 合同」と記入すること。領域 9 においてはキーワード「表面磁性」を選択すること。
- ・発表者・聴衆の便利のため、関連性が強いと思われる講演を組み合わせ、領域 10 との間で機動的に合同セッションを組むことがあります。

機動的合同セッションについて

- ・プログラム編成時に、内容的に合同セッションを組む方が良いと判断される講演数が一定数を超えた場合、合同セッションを設定する。
- ・そのテーマに関するキーワードを、双方の領域で次回募集要項に掲載し、定常的な合同セッションとして立ち上げる。
- ・キーワードの使用頻度が減少したら、削除する。

今回、領域 3 と開催した機動的合同セッション：

- ・表面磁性 (領域 3 主催) 発表件数 13 件 (うち領域 9 : 2 件) 今大会
発表件数 8 件 (うち領域 9 : 6 件) 2013 年春

資料 1. 最近企画されたシンポジウム

2013 年秋	
領域 9	二次元物質の成長過程
領域 9	単一原子・単一分子・ナノ粒子での量子物性の新展開
2013 年春	
領域 8,3,4,7,9,10	元素戦略が促進する分野融合と物理
素粒子論、理論核	エクサスケールに向けて歩み出す計算物理学
物理、領域	
11,9,8,7,3,4,5,6,12	
領域 11,9,7,12	水素結合と分散力に関する第一原理計算の現状と課題
2012 年秋	
領域 4, 6, 8, 9	トポロジカル絶縁体・超伝導体研究の最近の進展と今後の展望
領域 9	プローブ顕微鏡を用いた分光技術
2012 年春	
領域 9, 3, 4, 7, 8, 10	物理学における新・元素戦略
領域 9, 10	エネルギー・環境材料の機能と格子欠陥
領域 9, 5	放射光光電子分光による最先端表面研究
2011 年秋	
領域 9, 12	巨大分子～サブミクロン粒子の自己集積
領域 9, 4, 6, 7	多彩な表面系における電子輸送現象
領域 9, 5	垂直磁気異方性はどこまで理解されてきたか
領域 9, 7, 10	水素アトム科学の展望—プロトニクスに向けて
領域 9, 4, 7	グラフェン物性の新展開
領域 9, 4,8,11,12	ナノスケール量子輸送の計算科学的研究の現状・展望と次世代スパコンへの期待
領域 9, 5	Nanoscience by the fusion of light and scanning probe microscopy
2011 年春	
領域 9,5	Nanoscience by the fusion of light and scanning probe microscopy (光と走査プローブ顕微鏡の融合によるナノサイエンス)
領域 4, 8, 9,11, 12	ナノスケール量子輸送の計算科学的研究の現状・展望と次世代スパコンへの期待
2010 年秋	
領域 9,12	準安定結晶相の核形成-そのメカニズムに潜む普遍性を探る-
2010 年春	
領域 7,9	Force Spectroscopy and Tunneling Spectroscopy by SPM and related techniques
領域 9,7	有機半導体界面における電子状態プローブの新展開
領域 10,9,1	分子狭窄系の物理
領域 7,4,6,9	原子分解能をもつ X 線・電子線ホログラフィー
領域 4,3,9,6	グラフェンの生成・評価と物性-最前線と展望-
	量子スピンホール系・トポロジカル絶縁体の物理とその発展
2009 年秋	
領域 5, 7	分光学的手法による有機薄膜研究の最先端
領域 9,11,4,8,12	第一原理電子状態計算のフロンティアと次世代計算機への期待
領域 9,12	コロイド・巨大分子の結晶成長
2009 年春	
領域 9,3,4	超低速ミュオンが拓く表面・界面・薄膜の先端ナノサイエンス
領域 1,9,5	光・原子・表面一観る、操る～アルカリ原子を中心に～
領域 9,3	原子・分子レベルのスピン検出の最前線
領域 12,9	結晶成長とアミロイド病の物理学
2008 年秋	
領域 9,10	Physics and applications of hydrogen absorption on Pd surfaces and nano particles
領域 9,12	ソフトコンデンズドマターの結晶成長

2008 年春	
領域 3,9	実在表面・機能表面の物理 反転対称性の破れた表面におけるスピンと軌道
2007 年秋	
領域 7,9	精密に 1nm 構造に実現可能な物質機能の科学 探針型プローブー表面間相互作用の新展開
2007 年春	
領域 9, 10	ナノスコピック系の摩擦の物理: 摩擦の素過程と制御
領域 10, 9	ナノ微粒子の構造及び電子状態の制御とその機能性の展開
領域 9, 5	Atom Dynamics and Formation of Nano-objects by Electronic Excitations
領域 6, 4, 8, 9, 3	最近の低温実験技術の進歩と新しい物理の展開
2006 年秋	
領域 5, 9	The forefront of time- and space-resolved spectroscopies using high-brightness synchrotron radiation
領域 7, 9	単一分子伝導研究の現状と課題
2006 年春	
	制限された場における水分子の科学
2005 年秋	
	バイオミネラリゼーション ~ 生物による鉱物形成 ~ 原子間力顕微鏡法の新展開
領域 3, 9	ナノスケールで発現する金属磁性
2005 年春	
	結晶成長過程における有機分子の多彩な役割 Metallic nano-structure on silicon surface 固体における水素の科学の新展開
2004 年秋	
領域 9, 7	ヘテロ界面における新しい電子状態と制御
領域 9, 5	表面局所光学現象の観察と応用
領域 2, 1, 9	高密度プラズマ放射光源の高性能化と関連物理
領域 7, 8, 9	酸化物・分子性導体電界効果トランジスタ開発の現状と展望
2004 年春	
領域 9, 12	バイオクリスタリゼーション, 構造ゲノム科学, バイオインフォマティクスーその 3 重点に出現する新 phase の発見
領域 9, 7, 12	有機分子と表面の相互作用, : 単一分子から薄膜までのサイエンス
2003 年秋	
領域 3, 8, 9	スピンイメージングの最新の展開 ナノコンタクト・ナノワイヤの伝導 半導体表面の基底状態超構造と外場応答-Si(001)と Ge(001)を例に
2003 年春	
領域 9, 12	過冷却液体からの核生成・結晶成長
領域 9, 4, 3	表面・界面ナノスピントロニクスデザインと創製
領域 5, 9	表面多光子分光法の可能性を探る
2002 年秋	
	表面光電子分光法の技術革新: 表面量子準位からナノ構造まで 電子励起による表面ナノテクノロジーの展開
2002 年春	
領域 9,10	電子回折の新展開 水素と固体表面
領域 3, 9	高輝度放射光を利用した表面, ナノ領域磁性研究
2001 年秋	
	単一分子ー表面複合系の科学
2001 年春	
領域 7, 9	Si 系表面における相転移 ナノチューブ科学の最近の進展: 新物質合成から応用まで

資料 2. 最近企画された特別講演・招待講演

2013 年秋	徳島大学			
田中啓文	阪大理	領域 9	少数分子/ナノカーボン複合体の電気特性と新機能発現	
2013 年春	広島大学			
田村隆治	東理大基礎工	領域 9,6	準結晶関連物質における特異な構造相転移	
2012 年秋	横浜国立大学			
高柳邦夫	東工大院理工	領域 9,10	ナノ構造と物質移動	
奥田雄一	東工大院理工	領域 6,9	ランダム媒質と微小重力下の固体 4He 結晶成長	
2012 年春	関西学院大学			
Hoffmann Germar	National Tai- wan Univ	領域 9,3	Spin-polarized scanning tunneling microscopy of organic mag- netic molecules	
2011 年秋	富山大学			
木村昭夫	広大院理	領域 9,4,5	放射光 ARPES で捉える3次元トポロジカル絶縁体の Dirac Fermion	
立木昌	筑波大数理物 質科学	領域 9,8,3,6,7,11	超伝導研究の歴史・現状・将来	
2011 年春	新潟大学			
木村昭夫	広大院理	領域 9,4,5	表面プローブ法でとらえる 3 次元トポロジカル絶縁体表面の電子構造	
2010 年秋	大阪大学			
赤井恵	阪大工精密	領域 7,9	分子ナノシステムの物性探索と素子応用	
下條冬樹	熊大院自然	領域 6,9, 10,11,12	密度汎関数法に基づく構造不規則系の大規模分子動力学計算	
2010 年春	岡山大学			
日比野浩樹	NTT 物性基礎 研	領域 7,9	SiC 上に成長したエピタキシャルグラフェンの構造と電子物性の表面 電子顕微鏡による解析	
2009 年秋	熊本大学			
下田正彦	物材機構	領域 9,6	準結晶表面の STM 観察とクラスター構造	
杉山輝樹	奈良先端大	領域 9,5	光放射圧によるグリシンの結晶化と結晶成長制御	
2009 年春	立教大学			
深谷有喜	原研先端基礎 研究センター		反射高速陽電子回折に寄る表面相転移の研究	
2008 年秋	岩手大学			
白澤徹郎	東大物性研	領域 9,4	低速電子線照射による Si(001)表面の構造変化	
高岡毅	東北大多元研		超音速希ガス原子衝突を利用した表面分子摩擦の研究	
小倉正平	東大生研		金属表面における Au の拡散とフラクタル成長	
2008 年春	近畿大学			
佐藤正英	金沢大総合メ ディアセンター		表面拡散場中でのステップ列の形態不安定性	
2007 年秋	北海道大学			
荒船竜一	東大		表面振動励起非弾性光電子放出	
木村健二	京大		ラザフォード後方散乱法による Si/SiO ₂ 界面の酸化過程の解明	
2007 年春	鹿児島大学			
新井豊子	筑大		電圧印加非接触原子間力分光法による2物体間結合力の共鳴的増 大	
岡本裕己	分子研		金属ナノ粒子系のプラズモンダイナミクス:近接場イメージングによる 研究	
2006 年秋				
Sadwsi Jerzy. T.	東北大金研		Real-time low-energy electron microscopy investigation of the nucleation and growth of thin organic films	
Fadley, Charles S.	Univ. Califor- nia, Davis	領域9,5	X-ray photoelectron spectroscopy and diffraction in the hard x- ray regime: an overview	
立花明知	京大院工	領域 9,10,11	Rigged QED 理論による化学結合の可視化	
佐崎元	東北大		タンパク質の結晶成長素過程の分子レベルその場観察:巨大分子を 使って表面素過程を観る	
2006 年春				

鈴木博之	内閣府総合科学技術会議		第 3 期科学技術基本計画について(ナノテクノロジー・材料分野)
川越毅	大阪教育大	領域 9,3	スピン偏極走査トンネル分光法(スピン STM/STS)によるナノ磁性体の磁気イメージング
澤田勉	物材機構	領域 9, 5, 12	コロイド結晶の流動による単一ドメイン形成とフォトニック結晶特性
藤川安仁	東北大金研		半導体界面における格子不整合歪みの結晶構造への影響と構造緩和
2005 年秋			
大島義文 Bilgram Joerg	東工大総理工 Swiss Federal Institute of Technology		金属ナノチューブ・ナノワイヤの物性 Complex structures: A Symbiosis of Experiments and Numerical Studies
2005 年春			
森川良忠 山下良之 三浦浩治	阪大産研 東大物性研 愛教大物理		有機-金属界面の第一原理量子シミュレーション 軟 X 線発光分光法による SiO ₂ /Si 界面電子状態の直接観測 超潤滑系の物理
2004 年秋			
渡邊一也 松田巖	分子研 東大院理		実時間で観る表面吸着種のコヒーレント振動とその制御 結晶表面上単原子ステップの電気抵抗
2004 年春			
水木純一郎	原研放射光科学 研究センター		永遠の命を持つ自動車排ガス触媒の正体
奥田雄一 坂上護	東工大理工 JST	領域 9,6 領域 9,5	超音波を利用したヘリウムの結晶成長一核生成, 島と穴の生成と緩和 微視的理論による金属表面二光子光電子スペクトルの解析
2003 年秋			
塚田捷 福谷克之	東大院理 東大生研		走査プローブ顕微鏡の理論的展開 固体表面での水素分子のオルソーパラ転換
2003 年春			
長谷川修司 小森文夫 Kasumov Alekber Yu	東大理 東大物性研 理研, Univ. Paris-Sud	領域 9,3 領域 7, 9, 12	マイクロな 4 探針プローブ法による表面電子輸送の研究 強磁性ナノドット配列の形成過程と磁性 Superconductivity of carbon nano-tubes and DNAs
2002 年秋			
米田忠弘	理研		STM-IETS による振動励起で誘起された分子の移動と非弾性トンネル分光
上羽弘 中西寛	富山大工 阪大工		STM-IETS による振動励起で誘起された分子運動の素過程 磁性原子細線の物性 - 構造・磁性・スピン偏極電流 -
2002 年春			
上原洋一 Max G. Lagally	東北大通研 Univ. of Wisconsin		STM 発光スペクトルによる表面吸着種の同定 Strain Engineering, Self-Assembly, and Nano-architectures in the SiGe System
2001 年秋			
Ch. Gerber	IBM チューリッヒ研		Development of AFM and its application to Nano-sensors
O. Pierre-Louis	グルノーブル大学		Step Meandering on Vicinal Surfaces During Growth
2001 年春			
泉 邦英	京大院理		結晶成長機構と格子欠陥: 放射光を用いた Laue Topograph 法による直接観察
金山敏彦	JRCAT・融合研		水素化 Si クラスターの質量選別成長と Si 単結晶表面への堆積